

\*\*\*\*\*

新宿区立花園小学校 学校だより

# はなぞの

第339号 令和7年12月

## 子供に流れる1年の長さを想う

副校长 幸村 香代子

令和7年のカレンダーも残り1枚となりました。学校では、12月13日（土）の30周年記念音楽会に向けて、子供たちが練習に励む毎日です。本番はもちろん大切ですが、目標をもって取り組む過程こそが何より貴重です。この積み重ねの日々があるからこそ、心に残る音楽会となるのでしょうか。今年の大きな思い出がまたひとつ、増えそうです。

ところで、大人になるほど1年があつという間に過ぎてしまうと感じます。調べてみると、そこにはいくつかの理由があるようです。

1つ目は「人生に占める割合」の違いです。6歳にとっての1年は人生の6分の1、60歳にとっては60分の1。この相対的な長さの違いが、子供には長く、大人には短く感じる感覚につながると言われています。

2つ目は「新しい経験の量」です。脳は新しい情報ほど長く感じる性質があり、毎日が初めての連続である子供は、多くの記憶をつくる分、時間がゆっくり流れます。反対に、大人は生活がルーティン化し、新鮮な刺激が少ないため、細かな記憶が残りにくく、時間の流れが速く感じられるという説です。

3つ目は「注意の向け方の違い」です。子供は目の前のこと強く集中し、一瞬一瞬を濃く生きていますが、大人は予定や家事に追われ、時間を管理しながら過ごすため、流れが速く感じられるそうです。

4つ目は「振り返りの量」です。毎日が印象深い子供は振り返りの材料が多く、1年を長く感じやすいのに対し、大人は記憶が薄くなりがちです。

こうした説を見ると、子供たちは新しい体験と向き合うたびに、それを丁寧に脳に刻み込んでいることが分かります。しかし同時に、初めての事や慣れない事が多い子供たちは、「できるかな」「大丈夫かな」という不安を抱えながら日々を過ごしているのではないでしょうか。大人にとっては「すぐ終わるよ」と思える事でも、経験の少ない子供には見通しがもてず、まるで永遠に続くように感じているのかもしれません。

師走。子供にとっての長い長い1年が、また終わろうとしています。しかし、その1日、1日には確かな価値があり、子供たちはその1日を大切に、懸命に積み重ねています。そう考えると、カレンダーの最後の1枚が、ひときわ感慨深く思えてきます。

## 12月の生活目標

みんなで使う物を  
大切にしよう



## 12月の行事予定

- ④ 全校朝会 ⑤ 朝読書 ⑥ 安全指導  
 ③ 体育朝会 ⑦ 児童集会 ⑧ 音楽朝会  
 ② 朝遊び

日	曜	学校行事
1	月	④ 委員会 GAC(5年)
2	火	⑥
3	水	⑧
4	木	⑦ 手話教室(1年、新苑)
5	金	⑤
6	土	
7	日	四谷地区サッカーフィスティバル(四谷中)
8	月	④
9	火	⑤
10	水	⑤
11	木	⑧ 前日リハーサル①
12	金	⑤ 新宿区学力調査(2~6年) 前日リハーサル②
13	土	⑤ 音楽会
14	日	
15	月	振替休業日
16	火	④
17	水	⑤ 避難訓練
18	木	⑦ クリーンアップ大作戦Ⅱ
19	金	⑤ 社会科見学(4年)
20	土	高島屋クリスマスコンサート (合唱団)
21	日	
22	月	④ クラブ
23	火	⑤
24	水	⑤ 給食終
25	木	⑥ 終業式
26	金	冬季休業日始~7日(水)
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

花園小学校 HP

\*\*\*\*\*